

公立総合大学理事、大学にとって更に有効な活動をするための改善案を提示（12月1日）

非営利団体のパブリック・アジェンダ（Public Agenda）は、公立総合大学の理事の視点・経験・ニーズなどに関する調査結果をまとめた報告書「難しいバランス ～総合大学が直面する課題に関する理事の主張～（A Difficult Balance: Trustees Speak About the Challenges Facing Comprehensive Universities）」を発表した。本報告書は、公立総合大学合計 143 校に関与する 29 の理事会の代表者である理事 42 人と公立総合大学学長 45 人を対象とし、理事には 2014 年 8 月～2015 年 1 月に、学長には 2014 年 9 月～2015 年 1 月に面接を行い、その内容をまとめたものである。面接の結果は以下の通り。

- 財政に関しては、理事は最優先事項としながらも、大学の予算問題を対処する上で貢献できるほど、高等教育における財政を十分に理解していない理事が多数。
- 学生の成功に関しては、理事は大学における在籍率・卒業率の向上を望んでいるものの、学生の成功につながるイノベーションの詳細に関する理解を優先している理事は少数。
- 政治的支援活動に関しては、理事は重要性を強調しつつ、より効果的な活動ができるよう大学からの支援を希望。
- 労働力に関しては、理事は総合大学が地域経済開発の原動力となるべきとしながらも、大学と地域ビジネスとの間の橋渡し役を担っている理事は少数。
- 総合大学学長は理事に関し、理事による関与不足とマイクロマネジメントが問題であると回答。また、一部の学長は、理事が大学のミッションを十分に理解しておらず、そのために価値を付加することが困難と回答。

これらの結果を受けて、報告書作成者は、理事がより有効に任務を果たすことができるようにするために、理事に対するオリエンテーションの提供や、学生の成功に関する問題に関与する権限の付与など、提案事項 7 項目を提示している。

なお、本報告書は、<http://publicagenda.org/files/ADifficultBalance_PublicAgenda_2015.pdf>からダウンロード可能。

Public Agenda, *Trustees Speak About the Challenges Facing Comprehensive Universities*
<http://publicagenda.org/pages/a-difficult-balance>
